

抗がん剤「FF-21101」

肺がんなどの固形がんを対象とする臨床第 I 相試験を米国で開始

平成 28 年 1 月 14 日

富士フイルム株式会社(社長:中嶋 成博)は、1 月 12 日(現地時間)、米国において、抗がん剤「FF-21101」の臨床第 I 相試験を開始しましたのでお知らせします。本試験は、肺がんなどの固形がんを対象としたもので、がん領域で世界トップレベルの研究・治療施設である米国テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター(以下、MD アンダーソンがんセンター)^{※1}で行います。

「FF-21101」は、放射性同位体(RI)を標識した抗体(Armed 抗体^{※2})を用いた抗がん剤で、通常の抗体医薬品とは異なる作用メカニズムを持ちます。一般的な抗体医薬品は、抗体ががん細胞表面に発現する特定のタンパク質に結合し、生体を持つ免疫機能を誘引することで標的細胞を攻撃しますが、免疫機能が低下した患者に対しては効果が弱くなります。一方「FF-21101」は、RIを標識した抗体をがん細胞に集積させ、RI から放出する放射線で直接がん細胞を攻撃することができるため、患者の免疫機能の状態に関わらず、高い効果が期待できます。「FF-21101」は、固形がんの細胞表面に多く発現している P-カドヘリン^{※3}を標的とし、肺がんや膵臓がんなどの細胞に高い集積性を有する抗体を用いています。すでにマウスモデルでの動物実験では、がん組織を大幅に縮小させ、高い治療効果を示しています。

また「FF-21101」は、富士フイルムがグループ会社の技術を結集させ、開発したものです。抗体の創出には創薬系バイオベンチャーのペルセウスプロテオミクス、抗体の製造にはバイオ医薬品受託製造会社の Fujifilm Diosynth Biotechnologies、抗体に RI を標識するプロセスの開発には放射性医薬品メーカーの富士フイルム RI ファーマの技術を活用しています。

MD アンダーソンがんセンターは、年間 1 万人以上の治験参加患者数があり、約 2 万人のスタッフを有する、世界トップレベルの総合がんセンターです。富士フイルムは、MD アンダーソンがんセンターの世界最大規模の治験実施機能を活用し、臨床第 I 相試験を実施することで、「FF-21101」の安全性と初期の有効性を確認していきます。今後、MD アンダーソンがんセンターでの臨床試験を加速させ、早期の承認取得を目指していきます。

富士フイルムは、「がん」を重点領域の 1 つとして捉え、新薬の研究・開発を積極的に進めています。現在、MD アンダーソンがんセンターで臨床第 I 相試験を実施している抗がん剤「FF-10501」では、これまでに再発・難治性の血液がん患者に対して高い忍容性が示されるとともに、一部の患者で有効性が確認されるなど、順調に臨床試験が進捗しています。

富士フイルムは、解析技術、ナノテクノロジー、生産技術といった、写真フィルムで培った技術・ノウハウと、富山化学工業をはじめとした、医薬分野のグループ会社の技術を結集・融合させて、画期的な医薬品の研究・開発、生産プロセスの創出に取り組んでいます。今後、「がん」などのアンメットメディカルニーズが高い領域に注力し、研究・開発を積極的に推進して事業展開を図るとともに、革新的な医薬品の提供を通じて社会課題の解決に取り組んでいきます。

※1: テキサス州ヒューストン(米国)にあるがんの治療・研究・教育・予防を専門とする世界最大規模のがんセンター。1941 年に設立され、がん撲滅をミッションとしている。3 つの精神「思いやり」「誠実」「発見」の理念に基づき、がん治療の国際的リーダーとして、これまで多くの新しいがん治療を開発してきた。

※2: Armed 抗体は、抗体に RI や毒素を化学的に結合させたもので、がん細胞への攻撃力を高めることが期待できる。

※3: 細胞表面に存在する糖タンパク質の一群で、細胞接着をつかさどる分子。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

【報道関係】

コーポレートコミュニケーション部 TEL 03-6271-2000

【その他】

医薬品事業部 TEL 03-6271-2171